


終末期の類型

米村遊人「終末期」概念の意義と限界」より

①慢性期死亡類型

- 慢性疾患が緩徐に進行し、終末期を経て死に至る。
- 悪性腫瘍、ALSなどの神経難病、代謝性疾患などが該当する。




軽い 重症度 重い

経過

米村遊人「終末期」概念の意義と限界」より

②急性期死亡類型

- 短時間で発症・進行し、急速に終末期を迎え死に至る類型。（突然死は含まない）
- くも膜下出血(SAH)などの重症脳血管障害、重症の誤嚥性肺炎などが該当する。（多くは3次救急医療の守備範囲）




軽い 重症度 重い

経過

米村遊人「終末期」概念の意義と限界」より

③急性期・慢性期反復類型

- 慢性的な臓器機能の低下に急性期合併症が加わる事象を反復する。通常、急性期合併症の1つが致死性的。
- 特発性間質性肺炎、COPD（慢性閉塞性肺疾患）などの慢性呼吸器疾患、慢性心不全などが該当する。



軽い 重症度 重い

経過


米村遊人「終末期」概念の意義と限界」より

④原因不明類型

次の2つの類型がある。

- 諸検査によっても原因が判明しない場合
- 原因検索を含めて多くの医療行為が拒否・懈怠されている場合

↑ 後者は現実にかかなりの頻度で存在。



軽い 重症度 重い

経過

「国の在宅死4割目標は不可能」

「患者の意志を尊重した適切な終末期医療を提供する」として、厚生労働省は自宅等での死亡割合を4割にすることを目標にしているが、「高齢者の希望に沿うなら、逆に1割に下方修正するべきではないか」。厚労省が2030年には47万人の「死に場所」が確保できなくなると予想し、看取りの場所として自宅へと誘導する一方、高齢者の過半数が「自宅での看取り」は無理と考え、同省の目標とは大きな隔たりを見せていることが1月17日までに明らかになった。

関連記事：[「医療差別」に高齢者は怒っている](#)

この調査は、今年4月から始まる予定の「後期高齢者医療制度」に伴い、高齢者の終末期医療が激変する可能性があるとして指摘される中、青森県保険医協会が県内の高齢者を対象に、脳血管疾患の終末期をどう考え、どんな不安を持っているか等を探るために実施。昨年11月末から今年1月10日までに回収できた590人について集計した（回答率36%）。

脳血管障害や認知症等で入院し、日常生活が困難となった状態のまま退院を勧められた時、どこで生活したいかについては、リハビリのできる病院が47%、リハビリはできないが長期療養できる病院が14%と、医療機関に入院して治療を続けることを希望する人が61%を占めた。一方、自宅と答えた人は11%に止まった。

また、脳血管障害で誰かの助けが必要な状態で、肺炎等の重症の病気になり、回復する可能性が50%とされた場合、どこで療養したいかでは、脳血管疾患の終末期に医療機関に入院して治療を望む人は74%に上り、自宅で治療を継続すると答えた人は9%だった。

この関連で自宅以外を選択した理由に関しては、「きちんと治療がしたい」（53%）、「家族に迷惑をかけたくない」（39%）、「自宅での治療は不安」（37%）などが上位を占めた。



「自宅で看取ってくれますか」という問いに対する高齢者の回答割合（青森県保険医協会提供）

さらに、看取りの場所として厚労省が自宅へと誘導する中、あなたの家族は自宅で看取ってくれるかという問いに対しては、無理が52%、分からないが31%、看取ってくれるが17%。自宅で最期を迎える時の問題点では、「家族の負担が大きすぎる」が62%、「急変した時の対応に不安」が55%、「介護してくれる人が高齢化」が42%のほか、「介護してくれる家族がいない」（34%）、「居住環境が整っていない」（32%）という深刻な実態があることも分かった。

終末期医療に関して、同省の「終末期医療に関する調査等検討会」が2004年にまとめた報告書では、「（看取りについて）自宅を希望している国民は約6割」と発表。これに伴い、同省は「患者の意志を尊重した適切な終末期医療を提供する」ため、自宅等での死亡割合を4割にすることを目標に掲げている。しかし、今回の調査では、同省が示している看取りに関する国民の意識と、高齢者が実際に希望する看取りには相当のギャップがあることが浮き彫りになった。

青森県保険医協会は「厚労省は終末期療養の場所として自宅を望む国民が6割と発表しているが、20歳以上を対象に実施した数字。実際の高齢者の意識とは大きく異なり、問題だ。そうした数字を基に在宅死を4割にするという目標を達成できる可能性はゼロに近い。高齢者の希望に沿うというのなら、逆に1割に下方修正する必要があるのではないか。自宅での看取りを無理と考える高齢者が過半数を占めた結果は青森だけでなく、全国でも同じ傾向にあるだろう。医療費削減ありきの在宅誘導は実態を把握しておらず矛盾を助けて、施策を根本的に見直すべきだ」と強調している。

「医療差別」に高齢者は怒っている

「年を取ったら死ねというのか」、「年寄りに前期も後期もあるものか」、「『姥（うば）捨て山』化とはひどい」…。今年4月から始まる予定の「後期高齢者医療制度」に対し、高齢者の怒りが高まっている。75歳以上の国民を別建ての医療保険にする先進諸国では例がない新制度が間もなく施行される。「75歳の誕生日を迎えたら、『昨日の医療』が受けられなくなる」という医療差別への対象者の憤り・失望・疑問等は尽きない。青森県保険医協会が実施したアンケートに寄せられた高齢者の声や思いをまとめた。（山田 利和）

関連記事：[「国の在宅死4割目標は不可能」](#)

年を取ったら死ねというのか

アンケートは「後期高齢者医療制度」に伴い、同協会が県内の高齢者を対象に実施。昨年11月末から今年1月10日までに回収できた590人分について集計したところ、211人が新制度をはじめとする高齢者医療に関して意見を寄せた。

まず目立ったのは、高齢者とされる年齢に達していること自体への意見だ。80～84歳代の女性は「『年を取ったら長生きしないで死ね』と言わんばかりの政府のやり方に本当に腹が立つ」と反発。70歳代後半の女性は「生命の大切さがどこかで消される。終の棲家（すみか）も見つけれない。生きるも死ぬも地獄」と嘆いた。69歳以下の男性からは「老人をいじめ殺すような国に未来はあるのか？」という疑問が寄せられたほか、75～79歳以下の男性は、近年の政策を指して「小泉・安倍政権以来、急速に日本が破壊への道を走っている。介護が必要になった場合、財産があっても早く死にたい」とまで訴えている。

年寄りに前期も後期もあるものか

続いて、新制度をめぐる意見では、反対という声が続出した。

70歳代前半の女性は「75歳の誕生日を迎えたら、『昨日の医療』が受けられなくなるような医療差別。年金より保険料を天引きする等、とんでもない。高齢になれば、ある程度、体力が衰え、病気になるのは当たり前」と、新制度に対する素朴な疑問を投げ掛けた。69歳以下の男性も「年寄りに前期も後期もあるものか」と批判。70歳代前半の男性は「何年前かに川柳で『老人は早く死ねよ、国のため』とあった。いま政府のやり方はそうなれ、と言わないばかりだ。役人・政治家は現実をきちんと分かろうとしていない」と、国の姿勢を批判している。

また、「先日、夫が自ら命を絶ってしまった。高齢者に冷淡すぎる政治に希望を持たずに死を選んでしまったように思える。『姥捨て山』に行けと言わんばかりの後期高齢者医療制度は即刻やめるべきです」（70～74歳以下・女性）という深刻な事態も起きていることが分かった。新制度について、69歳以下の女性は「なぜ高齢者だけ別扱いの制度を設けなければならないのか。わざわざ別制度にするということは治療制限するのが最大の狙いだと思う」と追及。

同じ世代の男性も「介護保険制度は崩壊寸前、療養病床は多額の国費を投入し、病院に負担をよせ、整備させたにもかかわらず廃止（や削減を計画）、リハビリ日数制限は1年もたたずに見直し、障害者自立支援法は障害者を社会から追い出す悪法。今度は高齢者を国民皆保険制度から締め出し、医療から介護保険へ、最期は看取りへの流れを強行し、スタートさせようとしている」と、医療・福祉をめぐる一連の施策を批判した。

何のための政治なのか

さらに、「医療制度の充実を」求める声も多数に上った。

69歳以下の男性は「国の責任で誰もが安心して受けられる医療制度を確立させてほしい。医療費総枠を増やし、国民一人ひとりの負担を引き下げてほしい」と要望。医療体制に関しては、70～74歳以下の男性が「医師が安心して患者の立場で治療ができるよう診療報酬の引き上げを国に要求する。同時に医療体制に合わせて看護師の大幅増員も要求する」と訴えている。



国の医療制度に高齢者の怒りや失望が相次いでいる(写真はイメージです)

脳血管障害の終末期医療についてのアンケート調査結果

2008/01/10 青森県保険医協会

目的

後期高齢者医療制度が本年 4 月からスタートすることになっているが、新しい制度によって、高齢者の終末期医療が今後大きく変化する可能性があるといわれている。

これまではガンや悪性腫瘍の終末期に関する国民の意識調査はいくつかあるが、脳血管障害の終末期医療について高齢者が答えた調査は少ない。

そこで、今回は青森県内の高齢者を対象に、脳血管疾患の終末期についてどのように考え、どんな不安を持っているかを調査し過去の結果とも比較すること、厚労省の考えている「看取りの場」と高齢者が希望する「看取りの場」にギャップがないかを探ることを目的にアンケート調査を行った。

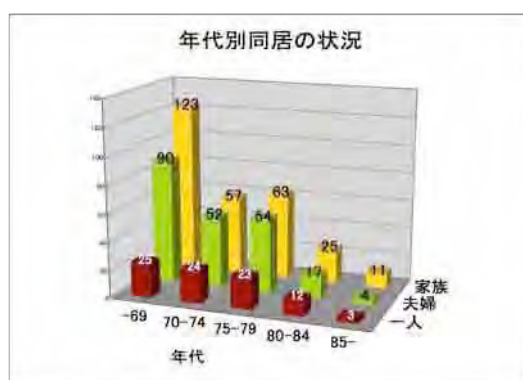
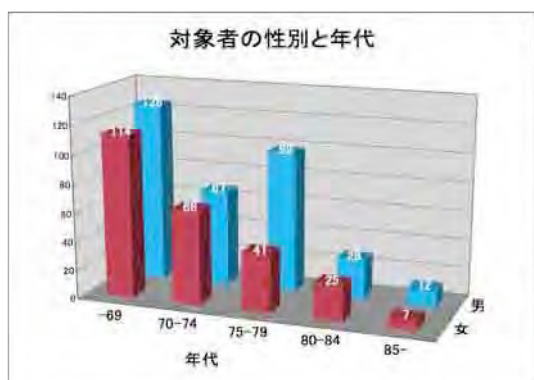
対象と調査期間

青森県内の老人クラブ、年金者組合などの団体に加入している高齢者（60 才以上）を対象にアンケート調査を行った。配布総数は 1,630 人、2007 年 11 月 30 日から 2008 年 1 月 10 日までの期間に回収できた 590 人について集計した。

集計結果

男性 332 人 女性 253 人 不明 5 人 合計 590 人（有効回答率 36%）

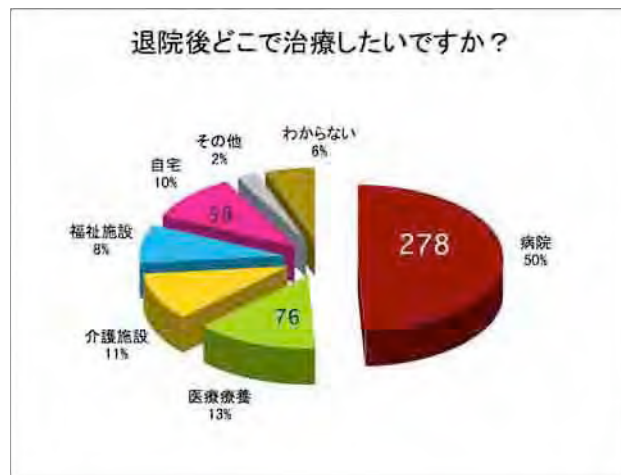
一人暮らしは 87 人、夫婦二人が 217 人、家族と一緒に 279 人と 85%は誰かと同居していた。ただ、年代別に見ると若いときは家族と一緒に暮らしたり夫婦で暮らしている割合が大きいが、高齢になるに従い一人暮らしの割合が増えることになる。



問 4. もしあなたが、脳血管障害や痴呆等によって入院治療し、日常生活が困難となった状態のまま、「自宅に帰るように」退院を勧められた時、どこで生活したいですか？（○は1つ）

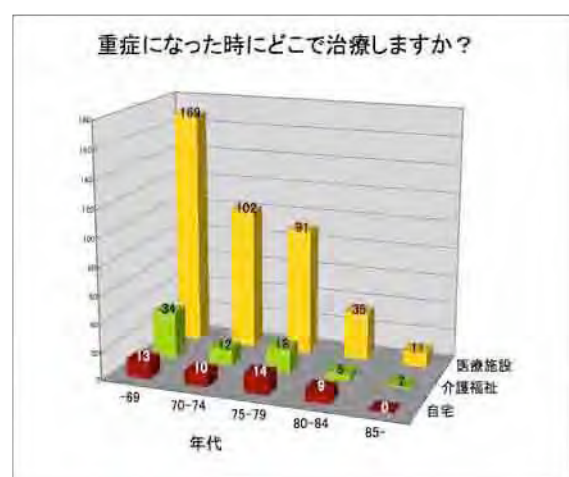
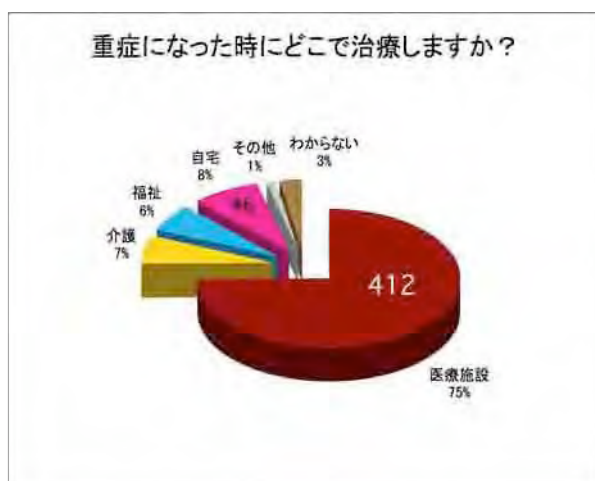
リハビリのできる病院 47%、リハビリは出来ないが長期療養できる病院 14%と医療機関に入院して治療を続けることを希望する人が 61%を占め、自宅と答えた人はわずか 11%だった。

急性期の後には回復期病棟が用意されているが、回復期病棟を退院した後も自宅を希望する人は非常に少ないことが明らかになった。



問 5 もしあなたが脳血管障害で誰かの助けが必要な状態で、加えて、重症の病気（例えば肺炎など）になり回復する可能性が 50%、悪化する可能性が 50%と言われた時、どこで療養したいですか？

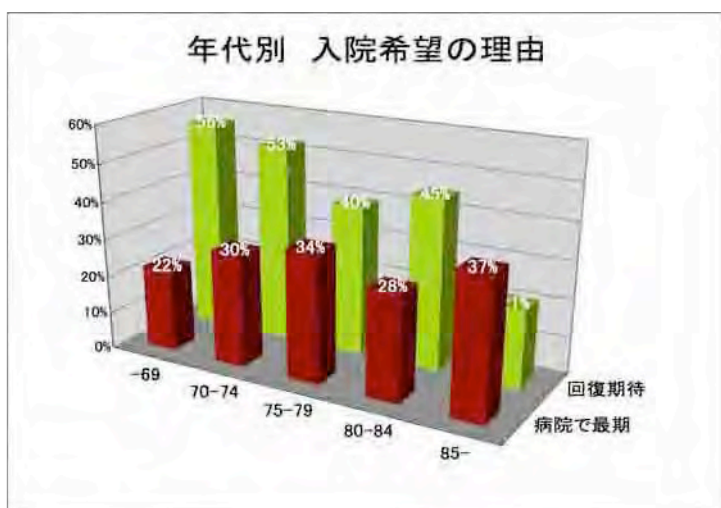
脳血管疾患の終末期に医療機関に入院して治療を希望する人は 74%と最も多く、自宅で治療を継続すると答えた人は 9%と少数で、過去のアンケートの 23%と比較して半分以下であった。



自宅以外を選択した理由については

きちんと治療がしたい	53%	(293人)	(過去項目なし)
家族に迷惑をかけたくない	39%	(213人)	(過去 84%)
自宅での治療は不安	37%	(206人)	(過去項目なし)
今までの病院で最期まで見てもらいたい	30%	(163人)	(過去 17%)
介護してくれる人が高齢化	28%	(142人)	(過去項目なし)
介護してくれる人がいない	21%	(114人)	(過去 12%)

医療機関への入院を希望した人で、最も多かった理由「回復する可能性があるならきちんと治療がしたい」を選択した人の年代と見ると、69才以下では56%と多く、高齢になるに従い割合は減少した。

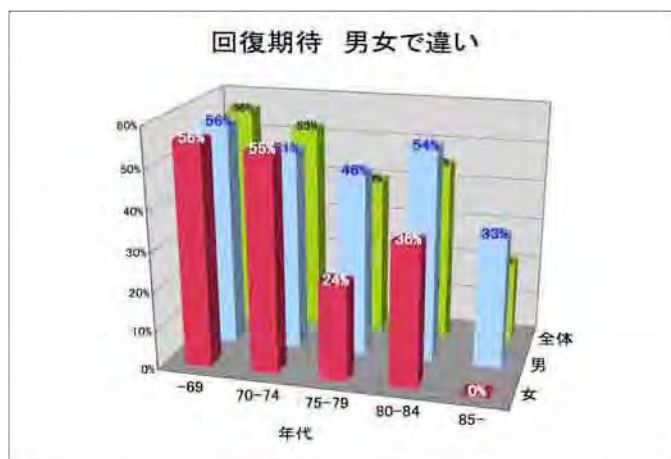


るに従い割合は減少した。

しかし、75才以上でも4割以上の人は回復を期待して入院治療を希望していた。

「今までの病院で最期を迎えたい」と答えた人は85才以上の年代で37%で、年齢とともに割合が増加していた。

さらに、回復を期待する人の割合について、75才以下では男女で違いがなかった。しかし、女性では75才以上で減少するのに対し、男性の1/2は75才以上でもそれ以前と同様に回復を期待しており、男女で病状の回復に対する期待は大きく異なっていた。

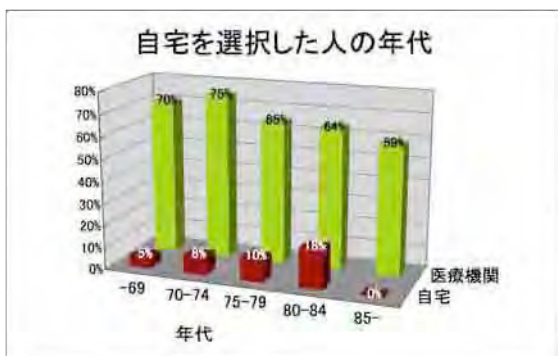


年代や性によって考え方が大きく異なる項目がある

終末期に対する考え方は、年代や男女によっても異なるため、これまで以上に詳細な意識調査が必要と思われた。

過去の調査では「脳血管疾患で、さらに、治る見込みのない疾患に冒された場合」の療養場所としては、病院が38%、自宅が23%だった。今回はわかりにくい設問を避け、日

常診療で良く経験される状況についてより具体的に設問した。その結果、医療機関での治療を選択した人は75%と高く、自宅は8%にすぎなかった。

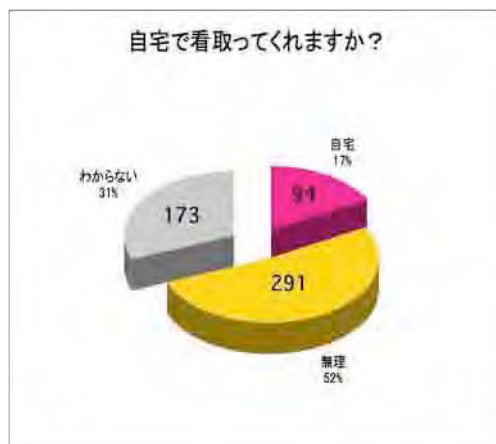


医療機関を選択した人は年齢とともに低下するようにも見えるが、各年代とも6割以上の人が選択していた。

自宅を選択した人の割合は、高齢になるほど上昇するようであった。

問6 厚労省は医療費を減らすために入院できる病床を減らしながら、2030年には47万人の「死に場所」が確保できなくなると予想し、看取りの場所として「自宅」を勧めています。あなたの場合、家族は自宅で看取ってくれますか？ (○は1つ)

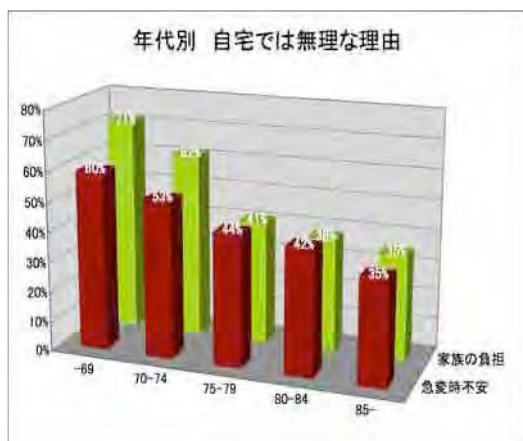
自宅では無理が最も多く52%、わからないが31%、自宅で看取ってくれるは17%だった。



自宅で最期を迎えるときの問題点について、

「家族の負担が大きすぎる」	62% (347人)
「急変したときの対応に不安」	55% (306人)
「介護してくれる人が高齢化」	42% (237人)
「介護してくれる家族がいない」	34% (189人)
「居住環境が整っていない」	32% (178人)

と続いた。



自宅では無理な理由として、最も多かった「家族の負担が大きすぎる」と次に多かった「急変した時の対応に不安」と答えた人の年代を見ると、年代分布はほぼ同じだった。

しかし、60才代ほど「自宅では無理」と感じていた結果は、年代とともに意識が変わるものか、歴史的に進んでいる核家族化、特に高齢者の単独世帯が急激に増加していることと関連しているかは、引き続き検討する必要がある。

まとめ

- 青森県内の高齢者を対象に「脳血管疾患の終末期」についてアンケート調査を実施した。
- 関心は非常に高く、自由記入欄にも多くの不安、怒りが記入されていた。
- 脳血管疾患で障害を持った場合、十分な医療リハビリを受けたいと考え（47%）、回復期病棟を退院後も自宅療養を希望する人はわずかだった（11%）。

- 「脳血管疾患の終末期」を自宅で迎えたいと考えている高齢者は9%と少数で、20才以上の一般人を対象にした2003年のアンケート調査の23%よりも少なかった。
- 自宅以外を選択した理由は、「医療機関できちんと治療したい」が最も多く、続いて過去の調査と同様「家族に迷惑をかけたくない」が多かった。さらに「介護してくれる人が高齢化、介護してくれる人がいない」が過去の調査より多く、年々自宅で終末期を迎えることができなくなっていると考えられた。
- 今後も一人暮らし高齢者、単身高齢世帯が増えると、さらに自宅で最期を迎えることが困難になると予想された。
- 高齢になるほど病院で最期を迎えたいと考える割合が増加していたが、同時に、4割の人は75才を過ぎても回復する可能性があるなら、病院に入院し治療したいと考えていた。
- ただ、「回復を期待して入院したい」と考えている人は、75才以下では男女に違いはないが、75才以上では女性の割合が減り、男性の半数は入院治療を希望していた。
- 自由記入意見から、自己負担額の変更（医療と介護の報酬改定と公費負担制度の変更）が自宅での療養や「在宅死」をさらに困難にしている可能性があった。

- 医療構造改革の一翼として後期高齢者医療制度も位置づけられているが、アンケート結果からは、在宅死を4割にする目標達成は非常に難しく、高齢者の希望にそうなら、逆に1割に下方修正する必要があると思われた。

- 参考 滞納世帯調査：
青森県保険医協会は県内40自治体に対し、75歳以上世帯の国保保険料滞納状況についてアンケート調査を実施した。「集計できない」、「回答不能」という自治体もあったが、2007年12月末の集計では18自治体から回答があり、青森県内で8,000世帯、1万人以上が滞納していると推定された。青森県の人口は147万人、そのうち後期高齢者数は16万人、介護保険料の普通徴収の収納率は75%で、国保料を滞納している人は介護保険料も滞納していると推定されている。

平成 19 年 12 月
老人クラブ会員 各位

青森県保険医協会
会長 河原木 俊 光

後期高齢者医療制度に関するアンケートへのご協力をお願い

謹啓 寒さも日一日と厳しさを増してきている昨今ですが、皆様にはますますご健勝にてお過ごしのことと拝察致します。

さて、既にご承知のこととは存じますが、来年 4 月 1 日より 75 歳以上の人を対象にした「後期高齢者医療制度」がスタートします。過日、新聞等で報道されましたように保険料についての青森県の平均は報道されていましたが、残念ながら同制度の内容等については何も触れられていませんでした。本協会では保険料負担の他にも以下のような問題点があると思っています。

1. いままで保険料を払っていなかった 75 歳以上の人からも保険料を徴収する。
2. 保険料が介護保険料と同様に年金より天引きされる。(天引きは 65 歳以上の国保加入者からも)
3. 看取りの場所 (死に場所) として病院から自宅・在宅へ変更しようとしている。
4. ある限度までは医療保険が使えるが、その限度を超えたら介護保険に移行させる。
5. 患者さんに「かかりつけ医」を選択させ、他の病医院に受診する際は、その「かかりつけ医」の紹介なしでは受診できない。等々です。

75 歳の誕生日を迎えたら、「昨日の医療」が受けられなくなるのです。このような医療差別は世界中を見渡してもありません。政府は医療費を「減らしたい」と思ってこのような制度を作ったと思いますが、「75 歳になったら医療費が掛かるので早く死んでくれ」と言わんばかりの、余りにも冷たい仕打ちではないでしょうか。本協会はこの制度を「姥捨て山制度」と考え、断固反対をしていく所存です。

つきましては、同制度について皆様がどのようにお考えになっているか別紙のアンケートを作成しました。皆様方の率直なご意見を拝聴し同制度の見直し・廃止を求め厚生労働省やマスコミにも訴えて行きますので、年末でご多忙とは存じますが、多くの皆様のご協力をお願い致します。

末筆になりますが、皆様のますますのご隆盛とご健康を衷心よりお祈り致します。

敬具

記

- ・ 同封のアンケートにご記入されたら同封の封書でご返送下さい。切手は不要です。
- ・ ご回答は 12 月〇日までお願い致します。
- ・ 同アンケートについては青森県老人クラブ連合会様にもご賛同頂いています。

以上

「青森県保険医協会」とは

青森県内で開業している医師、歯科医師の団体で現在 1,300 名の会員を擁しています。会の活動の目標の一つに「国民・地域医療の充実と発展のために県民と協力して事業を推進する」ことを掲げています。今回の活動もその一環です。

同アンケートに関するお問い合わせは、以下にお願いします。

「青森県保険医協会」 青森市松原 1-2-12、電話-017-722-5483、FAX017-774-1326

脳血管障害の終末期医療についてのアンケート結果

実施主体：青森県保険医協会

該当する番号、項目に○をつけてください。

問 1. あなたの性別は？

1. 男性 2. 女性

問 2. あなたの年代を教えてください。

- ・ 69 才以下（昭和 13 年以後の生まれ）
- ・ 70-74 才（昭和 8 年-12 年生まれ）
- ・ 75-79 才（昭和 3 年-7 年生まれ）
- ・ 80-84 才（大正 12 年-昭和 2 年生まれ）
- ・ 85 才以上（明治～大正 11 年生まれ）

	男	女	
-69	126	114	240
70-74	67	66	133
75-79	99	41	140
80-84	28	25	53
85-	12	7	19
NA			5
	332	253	591

問 3. どなたと一緒に暮らしていますか？

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 一人暮らし | 87 人 (15%) |
| 2. 夫婦二人暮らし | 217 人 (37%) |
| 3. 家族と一緒に | 279 人 (48%) |
| 4. その他（施設入所など | 0 人 |

脳血管障害についての質問です

問 4. もしあなたが、脳血管障害や痴呆等によって入院治療し、日常生活が困難となった状態のまま、「自宅に帰るように」退院を勧められた時、どこで生活したいですか？（○は 1 つ）

- | | |
|------------------------------|-------------|
| 1. リハビリができる病院 | 278 人 (48%) |
| 2. リハビリはできないが長期療養できる病院（医療施設） | 76 人 (13%) |
| 3. 「老健」＝介護老人保健施設（介護施設） | 61 人 (10%) |
| 4. 「特養」＝特別養護老人ホーム（福祉施設） | 48 人 (8%) |
| 5. 自宅にもどる | 58 人 (10%) |
| 6. その他（有料老人ホーム、ケアハウス、自由記入欄） | 12 人 (2%) |
| 7. わからない | 32 人 (5%) |

問5. もしあなたが脳血管障害で誰かの助けが必要な状態で、加えて、重症の病気（例えば肺炎など）になり回復する可能性が50%、悪化する可能性が50%と言われた時、どこで療養したいですか？（○は1つ）

1.	病院に入院する（医療施設）	412人（75%）
2.	「老健」＝介護老人保健施設（介護施設）	36人（7%）
3.	「特養」＝特別養護老人ホーム（福祉施設）	35人（6%）
4.	その他（自由記入欄）	7人（1%）
5.	自宅で在宅医療と介護を受けながら最後まで療養を続ける	46人（8%）
6.	わからない	15人（3%）

問5. で、5. 悪化しても最期まで「自宅療養したい」と回答した方への質問 それはなぜですか？
（○はいくつでも）

1.	自宅でできる程度の治療を希望するから	18人
2.	住み慣れた場所で最期を迎えたい	17人
3.	最期まで好きなように過ごしたい	14人
4.	家族に看取られて最期を迎えたい	16人
5.	むかし家族や知人も自宅で最期を迎えた	6人
6.	その他（自由記入欄）	2人

問5. で、1-4. の「自宅以外」の場所と回答した方への質問
なぜ、自宅以外の場所で療養したいと思いますか？
（○はいくつでも）

1.	自宅での治療内容には不安があるから	206人（37%）
2.	回復する可能性があるならきちんと治療	293人（53%）
3.	自宅ではかえってお金がかかるから	34人（6%）
4.	介護してくれる人が高齢化して大変だから	142人（26%）
5.	介護してくれる人がいないから	114人（21%）
6.	家族に迷惑をかけたくないから	213人（39%）
7.	自宅療養を家族が希望していないから	21人（4%）
8.	今までの病院で最期までみてほしい	163人（30%）
9.	その他（自由記入欄）	3人（1%）

問6 厚労省は医療費を減らすために入院できる病床を減らしながら、2030年には47万人の「死に場所」が確保できなくなると予想し、看取りの場所として「自宅」を勧めています。

あなたの場合、家族は自宅で看取ってくれますか？ (○は1つ)

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 自宅で看取ってくれる | 94人 (16%) |
| 2. 自宅では無理 | 291人 (50%) |
| 3. わからない | 173人 (30%) |

問7. 「自宅で最期まで療養する」ことには多くの課題があります。

どこに問題があると思いますか？ (○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|------------|
| 1. 自宅ではかえってお金がかかる | 100人 (18%) |
| 2. 介護してくれる家族がない | 189人 (34%) |
| 3. 介護してくれる人が高齢化して大変 | 237人 (42%) |
| 4. 介護してくれる家族の負担が大きすぎる | 347人 (62%) |
| 5. 居住環境が整っていない | 178人 (32%) |
| 6. 自宅では症状が急変したときの対応に不安がある | 306人 (55%) |
| 7. 往診してくれる医師が少ない | 144人 (26%) |
| 8. 来てくれる看護師さんが少ない | 62人 (11%) |
| 9. 来てくれるヘルパーさんが少ない | 46人 (8%) |
| 10. 24時間相談にのってくれるところが少ない | 121人 (22%) |
| 11. その他 (自由記入欄) | |

その他何でも、国や厚労省へのご意見を自由におかきください。

ご協力ありがとうございました。

後期高齢者医療制度アンケート→「自由意見欄」記載内容(211名分)—最終集計

1.年を取ったら死ねというのか

- 1.ダイヤモンド婚 花も嵐も踏み越えて ゆくか男の冥土へ生きる道【辞世の句】 (85歳以上・男性)
- 2.我々老人を何だと思っているんだ。死ねというのか。 (69歳以下・男性)
- 3.年寄り早く死ね!ということか。 (70代前半・男性 ほか多数)
- 4.生命の大切さがどこかで消される。終の棲家も見つけれない。生きるも死ぬも地獄です。 (70代後半・女性)
- 5.消費税UPして70歳以上医療費全額無料にすべきだ。老人の末期に対する国の対応はひどすぎる。老人は病気になったら死ねという行政はご免だ。 (80代前半・男性)
- 6.私は80歳をこえております。お荷物になるので早く死にたい。できれば長期でなく即座にと思っています。皆さんにご迷惑をかけたくないからです。国に至れりつく競り面倒をみてもらい、気持ちはやまやまですが、これからは国にもそんな余裕があるとは思えません。 (80代前半・女性)
- 7.今まで日本の為に頑張ってきた人たち、これからの余生を少しでも楽しみたいと思っていた世界が…。将来不安だらけの毎日です。やっぱり早く死んでくれ、なんでしょうね。 (69歳以下・女性)
- 8.若いときは一所懸命働いて税金を払っていたのに、「年を取ったら長生きしないでは死ね」と言わんばかりの政府のやり方に本当に腹が立ちます。 80~84歳・女性
- 9.老人は早く死ねと言わんばかりの政策に怒りを覚えます。69歳以下・不明
- 10.現在の政府の高齢者福祉政策は「姥捨て山」的と言わざるを得ない。年寄りは“早くあの世へ行け”というのか。 75~79歳以下・男性
- 11.他人に迷惑をかけずに、ピンピンコロリと行きたいです。そのために今から努力しています。 70~74歳、女性
12. 75歳以上の後期高齢者は1日も早く一人でも多く死んで欲しいという国の政策は正に殺人計画、実行者は殺人罪、殺人者は最終的に死刑になるように。 75~79歳以下・男性
- 13.老人をいじめ殺すような国に未来はあるのか?。 69歳以下・男性
- 14.小泉、安倍政権以来、急速に日本が破壊への道を走っている。介護が必要になった場合、財産はあっても早く死にたい。 75~79歳以下・男性
- 15.今の政府の考えは、長い間、国を支えてきて戦争・終戦の時代から一所懸命生きて働き、子供を育ててきた老人に「長く生きたから早く死ね」という制度を次々に作っています。そして時代を逆戻りさせ、また今の子供、孫にまで戦争を押しつけようとしているように思われます。断然、負けられません。まずは自助努力をして、日々健康に注意して食生活を正しく、ストレスを解消して、エコ生活をしていきたいです。 70~74歳以下・女性

2.後期高齢者医療制度について

- 1.後期高齢者医療制度の導入には反対である。なぜ、導入しなければならぬのか、その説明が十分でない。国民の理解が得られるまで中止すべきである。 (69歳以下・男性)
- 2.保険税の負担をこれ以上増やさないでほしい。 (69歳以下・男性)
- 3.戦後、荒廃した日本を復興に導いてきた、寄与してきた方々を姥捨て山にやるような制度には断固として反対します。人は誰でも年老いていきます。夫婦2人暮らしは大半を占めてきている現在、療養病床の削減は許されません。 (70代前半・男性)
- 4.後期高齢者医療制度そのものに反対です。75歳の誕生日を迎えたら「昨日の医療」が受けられなくなるような医療差別。年金より保険料を天引きする等、とんでもありません。高齢になればある程度、体力が衰え病気になるのは当たり前です。 (70代前半・女性)
- 5.後期高齢者こそ、戦中・戦後の日本の苦しい時代を乗り越えて、そして戦後の日本を今日のように再興させた人たちがばかりです。その人達のおかげであることを忘れて年を取ってしまった…病気になったからと言っても、世の中の邪魔者扱いにさせられ、年々少なくなっていく年金を受け取りながら、保険料を取られることは絶対に許されません。

- まったく、「早く死んでくれ」と言わんばかり。我慢できません。(70代後半・女性)
- 6.国家財政的にも大切だが、そればかりに主眼をおいた考え方、制度の仕組みを考え直してほしい。(69歳以下・男性)
- 7.後期高齢者医療制度は絶対にやらないでください。(70代前半・女性)
- 8.74歳と75歳以上でなぜ、医療内容が変化するのか。(69歳以下・男性)
- 9.私の家では女が私一人です。そのため、そのため自宅ではちょっとムリだと思っている。(70代前半・女性)
- 10.後期高齢者医療制度は絶対に嫌だ。(70代前半・女性)
- 11.持病をもちながらも、元気に生活しているが、現在の医療行政には不安を禁じ得ない。70代から医療費20%負担、75歳からの後期高齢者新制度には絶対反対である。(69歳以下・男性)
- 12.後期高齢者負担金が高い。(70代前半・女性)
- 13.介護保険、後期高齢者医療制度…。私にはお金がありません。何とかしてください。(70代後半・男性)
- 14.後期高齢者医療制度が実施されると、まず生活していけない。年金から特別徴収される金額があまりにも多額。また、保険料の値上がりがあるようです。差別医療を許せない。とにかく、この制度は撤回しかない。(70代前半・女性)
- 15.後期高齢者医療制度に反対。(70代後半・男性)
- 16.国は国民を人間と思っていない。働けるうち、役にたつうちは「物」と思って使おうとしているとしか思えない。(69歳以下・女性)
- 17.どこで面倒をみてもらえるのか、よく理解できるような制度になるように。(70代前半・女性)
- 18.後期高齢者医療制度は医療費の負担増になり、収入の少ない私たちにとっては大変不安な制度です。絶対反対です。隣国、韓国は年寄りを大切に作る国と聞いていますが、かつての我が国もそうだったのです。生命の尊重をモットーとした日本の国ではなかったのか。(70代後半・男性)
- 19.高齢者の医療費をこれ以上増やさないでほしい。(70代前半・男性)
- 20.後期高齢者医療制度は問題が沢山あります。75歳以上の人は大事に考えてほしいと思います。「長生きしてよかった」と思えるように、高齢者いじめをしないで下さい。これからの老後を安心して暮らせるようにしてよかった」と思えるように、高齢者いじめをしないで下さい。(70代後半・女性)
- 21.「姥捨て山制度」の廃止。(80代前半・男性)
- 22.今の病院は1ヵ月より入院させてくれず、退院してどこかへ行ってくださいと言われた時、私たちはどうすれば弱者を思いやる政策を進めること。人間らしい心に還れ！財源は金持ちからもっともらえばよい。それでも金持なのだから。(69歳以下・女性)
- 23.どこへ行けばよいのか。病院から早く退院しろと言われても困る。国や厚労省は何を考えているのか。とても心配です。(69歳以下・女性)
- 24.年金から自動的に何でも引き、手元に少しよりもお金がない。戸籍的には長男がいますが、出稼ぎをして実質、老人2人生活です。何か有ったときには大変で困っている。(70代後半・女性)
- 25.老人いじめは許せない。福祉は絶対守って、向上させていきたい。頑張っていきます。(70代後半・男性)
- 26.厚労省の改正は、老人を見捨てる悪法であり、高齢者は早く死ぬと言っているのと同じである。保険庁のでたらめは誰でも責任をとらず、国民に始末を押しつけている。(70代前半・男性)
- 27.老人の最期くらいは国が面倒をみてほしい。家族には負担がかけられない。(69歳以下・女性)
- 28.一生懸命働いて、国やふるさとづくりをしてきたのに、「姥捨て山」化とはひどい。若い人も働く意欲をもてるだろうか。
- 29.75歳以上にもなると、心身が虚弱となり、日常動作が困難になる。体も枯れ果てている。病気をした時に若い時の区分されるのはなぜか。うば捨て山制度はご免。どのような発想から進めたのか。(80代前半・女性)
- 30.高齢者は我慢強いから、今まで国の施策にじっとこらえて従ってきたと思う。これ以上、弱い立場になった高齢者をいじめないでください。(70代後半・男性)
- 31.国保や介護保険料はきちっと払っています。年金からの引き落としは希望しない。(69歳以下・女性)
- 32.何年前かに川柳で、「老人は早く死ぬよ、国のため」とあった。賛否両論あったと思うが、今政府のやり方はそうなら、と言わないばかりだ。強い者を助け、弱い者をいじめそのもの。自分たち(役人・政治家)は現実をきちんと

分かつとしていない。高齢者をもっと怒りの声をあげるべき。老人クラブ連合会も真剣に声をあげるべきだと思う。(80代前半・男性)

- 33.国保料もおくれてやっと払っています。介護保険料は最近ほとんど納められず、万が一必要になった時はどうなるのか、不安です。無駄遣いをなくして年寄りを助けてください。(80代前半・女性)
- 34.自宅で、と進める制度に協力しているような書き方になったようですが、我が家の経済状態から考えると、自宅となります。(69歳以下・女性)
- 35.老人の最期くらいは国が面倒をみてほしい。家族には負担がかけられない。(69歳以下・女性)
- 36.現在、75歳と73歳の二人ぐらしですが、3割負担です。もっと安くなるのですか？。私たちが知らないうちに1割から2割になり、現在は3割です。病院に行くと、4、5千円もとられると、年金があってもできるだけ病院には行かないようにしています。保険料や介護を滞納している人よりも困っています。(70代前半・女性)
- 37.日本国民として生まれた人には、国が最後まで面倒をみるのが当たり前のことだと思う。「言い人生だった」と全員が思っ息を引き取れるように考えて欲しい。それが国の責任がではないでしょうか？。(69歳以下・女性)
- 38.国民年金だけで死ぬまで面倒をみてくれるところがあれば安心です。家族に負担をかけたくないです。畳1枚分のところで十分です。(69歳以下・女性)
- 39.介護保険制度は崩壊寸前、療養病床は多額の国費を投入し、病院に負担をよせ、整備させたにもかかわらず廃止、リハビリ日数制限は1年もたたずに見直し、障害者自立支援法は障害者を社会から追い出す悪法。今度は高齢者を皆保険制度から締めだし、医療から介護保険へ、最期は在宅看取りへとの流れを強行し、平成20年4月1日にスタートさせようとしている。国民の目を保険料凍結に向けさせ、とりあえずスタートさせ、2年ごとに保険料を引き上げる構図だ。国が行う見直し、支援、改正の結果、恩恵を受けるのは国と大企業。真の支援と見直しを求める。(69歳以下・男性)
- 40.収入の少ない老人から強制的に金を搾取するとは許せない。自分は生活習慣病にならないように、食事、運動、休養をきちんととって続けていますが、病院の世話にはならない老後を目指しておりますが、老人医療を正したついででしょうか。こういう制度に踏み切って国であるということが、国際的に公表されるにあたり、国の信頼を失うことに繋がります。(70代前半・女性)
- 41.年金暮らしです。満額ではないため、少ししかもらえません。その中からお金が取られるなんて、とても我慢ができません。私は70歳です。(70代前半・女性)
- 42.誰がいつどこで、このような悪法を決定したのですか。国民皆保険がボロボロになり、アメリカのようになることは国民の誰も願っていません。保険医協会の先生方も全員医師会、歯科医師会に加入していると思いますが、もう少し自分の意見を言ってください。患者と共に闘ってください。この国はどうなっていくのですか。未来が暗くなるばかりです。(69歳以下・男性)
- 43.年寄りに前期も後期もあるものか。(69歳以下・男性)
- 44.何故に高齢者、特に75歳以上の人についてこのようなムリのある制度を作ったのか。ただ医療費を抑制するための理由からなのか。場当たりの制度では問題の根本的な解決にはならないのではないのか。高齢者の被扶養者家族からも保険料を、しかも年金から天引きするとは何事か。怒り心頭に発する。(70代前半・男性)
- 45.国や厚労省は高齢者の保険料・補助制度を改正し、それが非常に厳しく矛盾している。安心して医者に経済的にかかれるか不安だ。この点について、緩和してほしい。(80代前半・男性)
- 46.自分の死ぬ場所は自分で決められるように、もっとぬくもりのある政府であってほしい。(70代前半女性)
- 47.後期高齢者医療制度は高齢者に早く死ぬ、と言っているようなものだ。経済力がない人を救うのが政治なのではないか。同制度の中止・撤回を求めます。(69歳以下・男性)
- 48.敗戦の日本復興のために、一所懸命働き、老後のために年金を納めたにもかかわらず、年をとったら早く死ぬ、という事は断じて許せない。(69歳以下・男性)
- 49.この制度は廃止以外にない。頑張ってください。(69歳以下・男性)
- 50.年を取ればそんなにじゃまでしょう。以前は老人は国の土台を作った人達で、大切にしようとしてくれたものだ。私は長生きして孫の成長を見たいです。この政策に負けないでがんばるぞー。(69歳以下・女性)

- 51.姥捨て山政策を止めて、社会に尽くしてきた高齢者を大事にすべきだ。 80～84 歳・男性
- 52.後期高齢者医療制度の実施については強く反対します。 69 歳以下・男性
- 53.人権尊重を放棄する後期高齢者医療制度には絶対反対です。 75～79 歳以下・男性
- 54.命切り捨ての後期高齢者医療制度の中止、撤廃を心から願う毎日です。70 歳を目の前に毎日が不安です。
69 歳以下・女性
- 55.血縁が遠い家族なので今は生活できているが、介護は望めません。先が真っ暗な思いで暮らしています。老人とは悲しいものだなあーと思っています。 75～79 歳以下・女性
- 56.後期高齢者医療制度を直ちに止めて欲しい。かかりつけ医が遠いので直ぐに往診してくれる医師がいない。
75～79 歳以下・男性
- 57.結論、後期高齢者医療制度の中止撤回を求めます。 70～74 歳以下・男性
- 58.私の父母、妻の父母の最後は私たち夫婦で看取ったが、そこが病院だったから安心出来た。しかし、今は子供達が遠くにいるので、妻に世話をして貰うのが辛い。増して自宅では不可能だ。何故こんなにも変わってしまったのだろうか。 75～歳以下・男性
- 59.退職したときにある人に言われた「私達はたずまるものは年金よりない。この年金は現場でベースアップの時、物価が上がったときに上がる。下がるときはない、物価が下がっても下がらない」、私はありがたいなあーと思いました。ところが下がった。何回も下がった。介護保険料は上がる。国保も上がる。住民税も上がる。加えて消費税も 10% にしようとしている。どこまで生活が下がるのか。その上に後期高齢者医療制度もう止めてくれ!!、真綿で首を絞めるのはやめてくれ。 69 歳以下・男性
- 60.先日、夫が自ら命を絶ってしまいました。高齢者に冷淡すぎる政治に希望を持たずに死を選んでしまったように思えます。「姥捨て山」に行けと言わんばかりの後期高齢者医療制度は即刻止めるべきです。 70～74 歳以下・女性
- 61.後期高齢者医療制度は「姥捨て山」制度であり、該当者として強い憤りを感じます。高齢と言うことで現在でも必要な諸検査や治療を間引かれているとき、医療費の更なる抑制を目的に導入されようとしていることを考えると、必要な医療の制限、保険料の負担増、医療費負担増になることは避けられないと思う。生きている限り平等に高齢期を迎えます。高齢期くらい心安らかな生活が出来るような施策を講じて欲しい。 75～79 歳以下・男性
- 62.こんなに老人をバカにした制度はあるのか。老人をバカにする政治家の言動は今までも沢山あったが、それらを制度にすると何と恐ろしい日本ではありませんか。いろいろな立場を超えて日本の発展のために努力を惜しまず働いてきた老人に、むごい仕打ちです。 69 歳以下・男性
- 63.介護してくれる家族がいない人以外は、出来れば家で看取って貰いたいと思っています。但し、お金がかからず医療もしっかり受けられて(訪問医療)、ヘルパーの介護も受けられる、という条件の下で可能なことです。社会の保障としてそれらの条件作りをお願いしたい。 69 歳以下・女性
- 64.家族が脳卒中で寝たきりになり(看取ることになり)大変さを身にしみて感じている。医療費の高さに驚きうろたえた。高額医療費補助があるといっても月 8 万円の負担は大きすぎ、お金がなければ病院にはかかれない。老人ホームなどへも入れない。高齢の親を抱え、脳卒中の弟を抱えどうやって生活をしていけばよいのやら。老後を安心して過ごせるよう国が面倒見てくれるようにして欲しい。 69 歳以下・男性
- 65.私の父は、84 歳で脳梗塞により右半身不随となりました。本人の希望で帰宅し、その後 7 年間、91 歳で死亡するまで、ほぼ母親一人で介護しました。尿バックを付けていたために 2 週に 1 回泌尿器科医による尿バッグの交換と週 1 回の訪問入浴補助を受けましたが、その他にはホームヘルパーを利用することもありませんでした。母も介護を始めたときは 78 歳でまだ元気でしたが、父が死亡する 1 年前くらいからは体力も腕力も弱くなり大変苦労しました。私も実家から離れて仕事を持っていましたので、退職するまでは十分援助が出来ませんでした。自宅で十分な介護や看護を受けられるのであればそれは幸せなことだとは思いますが、現実には大変難しいことです。
69 歳以下・女性
- 66.病は必ず訪れるもの。その時、何に頼ることが出来るのか。弱い者を切り捨てる政治は許せません。
69 歳以下・男性
- 67.理想としては住み慣れた我が家で家族に看取られて一生を送ることは誰もが望むことではありますが、子供は遠くに

住み、夫婦二人高齢者であればどちらが倒れても現実問題点としては無理があることではないでしょうか。

69歳以下・女性

68-何故高齢者だけ別扱いの制度を設けなければならないのか。わざわざ別制度にするということは治療制限するのが最大の狙いだと思う。また、厳しい保険料の取り立てによって医者にかかれない人達が多数出てくる。文字通り姥捨て以外の何物でもない。お金のない人は早く死ぬという。憲法違反のこの制度はやめるべき。対米協力の無駄な支出、天下り制度などの大きな無駄を止めて、国民を大切に。 69歳以下・女性

69-若いときは健康でよく働き保険料もちゃんと納めてきた。年を取って自分の身の始末が出来にくくなり、身体的にもそここちで故障が出来る頃になって、何にもしてくれない政治は誰のためのものなのか。政府の方は自分の身に置き換えてよく考えて欲しい。「勝手に死ぬ」と言っているのと同じだと思えば腹が立ってならない。

75~79歳以下・女性

70-漠然と感じていた老後への不安「年寄り不要・邪魔だ」の社会がいよいよ現実になった感があります。私達夫婦とも、まだ元気であることや、両親二人とも長く床につくことなく自宅で逝ったことから、まだまだ自分の先をどう考えたらよいか、実感がわからない状態です。 70~74歳以下・男性

71-誰でも病気にはなりたくないで予防に努め、健康管理をしているが、老いてくれば病気はつきもの。年々高齢者には冷たい世の中になっている。今のような状態だと安心して生活出来ない。明るい展望の持てる社会になって欲しい。 70~74歳以下・女性

72-「社会保障費抑制ありき」論を見直すべき。高齢化の進展に伴う増額は自然増である。財源確保のための負担増であったり、切り捨ては容認出来ない。無駄な歳出の見直しと大企業の負担で増税も不必要。 69歳以下・男性

73-私達の願いである老後の暮らしと生命を守る施策に重点を置いた政治に命をかけて下さるようお願いいたします。

69歳以下・男性

74-老人限らず全ての人間の尊厳を失われないような扱いをして欲しい。経済的に困っている人を見捨てないこと。

80~84歳以下・男性

75-老後の扱い方の政府のが考え方には腹が立つ。まるでゴミ処理的で誠に投げやりの冷淡である。

80~84歳以下・男性

76-同制度を知って驚くと共に、「良くもうまあこんなことを」と、怒り心頭にきています。65歳なのに「高齢者の問題はまだ----」と思っていたのです。国が国民をこんな騙すなんて本当に平和の問題だけではなく、みんな繋がっているんですね。 69歳以下・女性

77-それぞれの家庭の事情が、その時々と変わりますので、病院等の受け入れ態勢が必要です。「死に場所」を勝手に決めないで下さい。核家族を前提に物事を考えて欲しいものです。 69歳以下・女性

78-逆立ちした財政の支出を止めれば、医療、福祉、教育の分野に回せば「姥捨て山制度」など実施しなくても解決出来る話です。弱者いじめを止めるよう要望します。 69歳以下・男性

79-国では財政面が大変だから兎に角医療費の掛かる高齢者から何とかしようこの制度を作ったのですが、私も働ける時期は永年勤めて高い保険料を納めてきました。高齢になると共に自分では努力してもそれなりの衰えはやってきます。この制度の詳しいことがまだ解らないのでもっとよく説明して欲しい。 70~74歳以下・女性

80-政府は酷い制度を考え実行しようとしているのですね。国民をどう考えているのでしょうか。私は11月にアメリカのドキュメント映画「シッコ」を見ました。キューバの老人達は明るい生活をしていました。日本も私達の未来が何も心配なく安心して明るく生活出来るようにしなければなりません。 69歳以下・女性

81-敗戦後の日本を支え繁栄させてきたのは、現在高齢といわれている人達です。一所懸命働いて老後は安心した生活で一生終わりたいと老人の誰もが思ってきたに違いない。こんな酷い仕打ちを受けるなんてと絶望的になっている人が増えていると思う。子供は職を失い正社員になれなかったりと、親の面倒を見られる状況ではない。老人を大切にしない国はやがて崩壊してしまうだろう。老人を守れ！。 69歳以下・女性

82-私は1日1日の生活習慣が老後の健康に影響すると思っていますので、自己管理を自分なりにやっています。専門家でもありませんので本等で知り得たことを参考にやっています。やはり厚労省当たりが成人病に対する啓蒙が大いに役立つのではないのでしょうか。漫然と生きると自ずと結果が出てくるのではないのでしょうか。私は夫に先立たれ

ていますので一人で老後を愉しく生きるように努力しています。 70~74 歳以下・女性

83-①75 歳以上の健康保険被扶養者からも保険料を徴収することには反対です。農業をやっていた兄は、毎月 3 万円ちょっとの年金を受け取り、長男の扶養家族になっています。その年金で医療費を払ったり、孫へのお小遣いをやったりの生活をしています。またその年金から保険料を天引きされると、現在の慎ましい生活も出来なくなります。長男はタクシーの運転手ですので収入も少なく、親へお小遣いをやるのも難しい状態です。高齢者や低所得者に対して酷な制度です。②病院のベットを減らし、病人を施設や自宅に帰させる制度には反対です。兄は大腸ガンで入院しました。手術の後はある程度良くなっていますが、燕下障害となり、うまく食事が出来ません。ゆっくりと時間若ければ回復出来ると考えていましたが病院から転院を薦められました。施設は 100 日待ちと不可能な状態でした。また施設は 3 万円ちょっとの年金では経済的にも不可能です。仕方なく自宅で介護している状態です。大変です。病院は患者の生活の質より「3 ヶ月以上は入院させない」とのことばかり頭にあるようです。長く置くと赤字になるとのこと、残念です。ゆっくりと納得出来るまで治療出来る制度であって欲しいものです。 69 歳以下・女性

3.医療制度の充実を

- 1- 人間が人間を殺す軍事費に金を使うことに反対し、人を生かす。長生きできる社会に金を使って欲しい。今のまま突き進むのであれば、希望がもてない。 (69 歳以下・女性)
- 2- 高齢になったら安心して、病院に入れる、生活できる制度にしてください。 (69 歳以下・女性)
- 3- 高齢者が住みやすい日々を今後考えて下さるようお願い申し上げます。 (69 歳以下・女性)
- 4- 重い病気には手厚い保障をするようにしてほしい。 (70 代前半・男性)
- 5- 医療や福祉施設が必要に間に合うよう、整備しておいてもらいたい。 (70 代後半・男性)
- 6- 国、厚労省が自信を持った国造りに自信をもたせる国民にしてください。 (70 代前半・男性)
- 7- いつでも安心して医療を受けられるように。 (69 歳以下・男性)
- 8- 国の責任で誰もが安心して受けられる医療制度を確立させてほしい。医療費総枠を増やし、国民一人一人の負担を引き下げてほしい。 (69 歳以下・男性)
- 9- 医療費が一番心配。 (70 代後半・男性)
- 10- アメリカの真似はやめていただきたい。 (70 代前半・男性)
- 11- ヨーロッパのように、医療費は全額国庫負担になるよう、運動をすることが大切。 (70 代前半・男性)
- 12- 要望・意見がありすぎて書ききれない。健康を取り戻すまで療養させてほしい。 (70 代後半・男性)
- 13- 介護してくれる人が高齢化して大変です。国や厚労省がもっと高齢者に安心できるようにしてください。 (69 歳以下・男性)
- 14- 入院できる病床を減らすのは反対。本人・家族が納得するまで入院してから退院したいです。 69 歳以下・男性
- 15- 介護予防のための積極的な対策と実施に取り組んで欲しい。 (70 代後半・男性)
- 16- 税金の使い方を変えて、医療に回せ。 69 歳以下・男性
- 17- いろいろな無駄遣いを(米軍思いやり予算を含む)を止めて、国民の医療のために税金をもっと使って下さい。 69 歳以下・女性
- 18- 保険料や医療費が高いので生活が大変です。年金は月 12 万円です。妻も腰の大手術しているので介護は望めません。年寄りに優しい政治を願っています。 69 歳以下・男性
- 19- 医師が安心して患者の立場で治療が出来るよう診療報酬を引き上げを国に要求します。同時に看護師を医療体制に合わせて大幅増員も要求します。 70~74 歳以下・男性
- 20- 高齢化が進んでいる最中、病床を減らす政治は許されるものではありません。国民の不安をなくし、国民生活を守ることが政治の基本ではないでしょうか。何のための政治なのか。政府なのか。しっかりと政治を望みます。 70~74 歳以下・男性
- 21- 病気は防げる場合もあるかも知れませんが、予防にも力を入れて欲しい(心身共に)。病気になったとき安心な体制をとということで、いろんな署名に取り組んで、いつかは実現すると頑張ったのに、全くの逆が今日である。憲法を生かした政治を強く望みます。 69 歳以下・女性

22-高齢者の医療負担を軽減して欲しい。現在3割負担で入院したら(脳梗塞)多額であり、年金生活の私にとってとてもお金が医療にかかり金があれば治療を受けられないことを深く感じました。 70~74歳以下・女性

4.税金等へ

- 1- 世界第2位の経済大国と言われる我が国で、高齢者を差別する政策は、それにふさわしくないと、財界は考えるべきだと思う。国民に愛国心を強要する勢力が法人税の負担増となると、海外へ逃げる等ということを平気で主張し、それを当然視する政府与党の考え方は受け入れられない。増税が必要であれば、納められる人が負担し、弱者の負担はその後である。 (69歳以下・男性)
- 2- 国やその機関がこうして国民を簡単に軽んじる日本である限り、世界諸国は日本を軽んじ、永久に敗戦国、戦犯として見続けていく気がする。国民の命すら重んじることが出来ないのに、世界で何か大きなことを成し遂げよう、貢献しようとする考えは論外だ。 (69歳以下・女性)
- 3- 無駄な税金の使い方をやめてほしい、もっと人間的な生活が全国民が出来るようにしてほしい。例えば、飛行機一機を買わなかったら、どれくらいの間が助かるか、政府の人に問いかけて欲しい。 (70代前半・女性)
- 4- 税金の使い方を変えて、医療や介護、福祉の充実を考えてください。無駄な公共事業やアメリカの思いやり予算を社会保障、若い人達が希望のもてる生活ができるように使い方を考えて欲しい。 (70代前半・女性)
- 5- 国の税金の無駄遣いが多すぎる。テレビでとり上げられているものだけでも、莫大なものだ。(70代後半・男性)
- 5- 福田総理大臣へお願いします。大企業から法人税をもらってください。心からお願いします。私たち老人をいじめないでください。今現在、病院にあまり行っていませんが、これから先のことはわかりませんが不安です。 (70代前半・女性)
- 7- 国会議員の給料を下げなさい。国会議員のための決め方をしている、もう一度、直してほしい。(記載なし)
- 8- 年金が少なくなる、介護、国保が高くなる、国会では住みよい生活をしている国民の税金を無駄にしないこと。 (70代前半・男性)
- 9- なぜ、高齢者に多きな負担をさせるのですか。政治はまず、国民の幸せのため行うものである。外国への援助が必要ですが、自国民を捨ててまで援助する必要はないと思う。国民には金持ち、そうではない人がいると思います。できるだけ、国民中心に考えて欲しい。 (70代後半・男性)
- 10- 軍事費の予算を社会保障に。大企業、資産家からもっと税金をとること。住民税が高くて生活ができない。 (70代後半・男性)
- 11- 所得に応じて所得税、法人税などを徴収して国家予算を形成すること。国会予算の使い道は国民生活優先型にすること。その最たるものは社会保障だと思う。社会保障費は所得格差を是正するのに最も有効な国民所得の再分配方法だと考える。社会保障を充実して国民が安心し、生き続けられる国造りをするのが国家の最大の役割だと思う。それに反する内閣は政権交代しなさい。 (69歳以下・男性)
- 12- 今の私たちが生活しているこの時代は、お金のない人は死ぬ、という時代だと思います。原始時代のほうがまだマシです。お金を同じところに集めておかないで、無駄なところにお金を使わないで、広く広く流して！ (69歳以下・女性)
- 13- 人間の命を殺傷するための費用(軍事費)を、人間の命を守るための費用(医療費)に使ってください。大切な大切な税金です。よくお考えください。 (69歳以下・女性)
- 14- 国は防衛費に膨大な金をつぎこんでいる。それを減らして国民の生活と医療へ金を使ってもらいたい。 (70代後半・男性)
- 15- このような医療政策では、自宅で誰にも看取られることなく、独り苦しみながら亡くなっていく高齢者が増えるばかりです。大企業への適正な課税と軍事費を削って、医療にかかわる予算を増やすべきです。「高齢者が増えて困る」ではなく、「高齢者が元気な国」を目指すべきです。 (69歳以下・男性)
- 16- 軍事等の無駄遣いに税金を支出せず、福祉・医療、雇用等人間らしい生活が出来るように支出をしも有効に活用して欲しい。 69歳以下・男性
- 17- 国は約束を守るべきだ。軍事費を削って福祉に回すべき。天下り廃止で経費の削減を。70~74歳以下・男性

- 18-税金を取るべきところから当たり前に取り、国民が安心して「あちら」にいけるように考えて欲しい。役人はお金を持っているから全然関係ないと思っているんでしょう---。 69歳以下・女性
- 19-少子高齢化の社会とはいえ、税の集め方、使い方を工夫すれば、必要な社会保障費をまかなうだけの財源は確保出来ると思う。日本は世界の人々がうらやむような福祉国家を目指すべきだ。 69歳以下・男性
- 20-儲かっている企業から税金を取って弱者に回すべき。お年寄りを大事にする政治家を選ぶべき。 69歳以下・男性

5.その他

- 1-かつては国保が無料だった頃もあったと思う。それは今になって高齢者増えたのでという、理由で高齢者いじめの施策が打ち出されているが、実を言えば対症療法で施策であり、相対的な見地になっての施策の実際からであり、そのためにはもっと無駄を減らしてほしい。 (69歳以下・男性)
- 2-福祉切り捨て、軍備増強の道を進む日本に不安を感じる。憲法9条を守り、老後に心配のない社会の実現は夢や絵に描いた餅にしてはならない。1人は微力でも団結して大きな力になろう(老人を粗末にする国は決して発展しないのだから)。老人パワーを見せよう。若い者も同じ道を歩くのだから。不安のない老後を考え、改悪を止めよう。
(69歳以下)
- 3-医師不足を早急に解決してほしい。医療保険料をもっと安くしてもらいたい。 (70代後半・男性)
- 3-北海道の滝川市であった障害年金受給者の不正とか、身近にもそういうのがあるかと思います。生活保護とか、障害年金とか、国が市町村のしっかりした見直しをして欲しい。苦しくても税金を払っている人が、一番意嫌なニュースでした。 (69歳以下・女性)
- 5-よく仕事をして、共済金も十分に掛けたつもりである。いま、財政が悪いと意って納得できない老後。ついに、病院に入った場合、支払いが気になります。安楽く生活をしたいものです。 (70代後半・男性)
- 6-国や厚労省は視点が定まっていない。大臣はお金持ちで就職にも困らず、不自由はない生活の人ばかりであるかでしょう。どこへお金を使うか、もっと真剣に考えてください。論語を読んでみて、為政者、総理はどうあるべきか、書かれています。老人には優しい政治をとると言っています。 (80代前半・女性)
- 7-医師が全体的に不足しているので、増やしてほしい。 (70代後半・男性)
- 8-福祉行政に対する政治理念が退化している。 (70代後半・男性)
- 9-ひどい国になったものです。金のない話ばかり。その割にはアメリカになんぼでもくれる話ばかり。69歳以下・男性
- 10-国(行政)は憲法25条の精神をきちんと守ること。国民があつての国ですから、その国民が少なくなってしまうことは、最後には国そのものが無くなることになります。 (70代前半・男性)
- 11-人間は皆死にます、年を取ります。国は何を考えているのでしょうか。国を滅ぼすためですか?今ほどつらい時代はありません。誰のための政治でしょうか。国民あつての政治ですよ。 (70代前半・女性)
- 12-年金の減額はやめろ。健保・介護保険料を引き上げるな。安心して老後の生活が出来る社会を作れ。弱い者いじめはやめよ。 69歳以下、男性
- 13-一生を終えるためには、いろいろな苦勞がありますが、異常にお金のかかる国・日本。もっと暮らしやすい穏やかな気持ちで一生を終えられる、そんな国であって欲しい。 69歳以下・女性
- 14-最近の厚労省は国民生活を苦しめることばかりしている。そんな役所は必要ないので廃止すべきだ。
70~74歳以下・男性
- 15-政府は日本国民のために政治を行うべきであり、その為にお金を使うべきである。「予算がない」「国際社会」云々と、国民を軽視した医療政治を止めて安心して老後の生活が出来るようにすべきである。 75~79歳以下・男性
- 16-これでもか、これでもか、と次から次へと私たち高齢者を肩身の狭い思いに追いつめていく今の日本に強い憤りを感じて身震いする思いです。年金は毎年手取りが減って生活を切りつめるに必死です。これで本当に生きているのだろうか疑問に思います。私たちは贅沢をしたいと言っているのではなく、ごく普通の人間らしい生活がしたいのです。国民の生活を守れないで何が国益か。口を開けば国益というが、私達・ワーキングプア一歩手前の国民を見捨てて、国益と言うがチャンチャラおかしい。恥を知れ! 69歳以下・女性
- 17-福田総理は「安心安全な暮らし」と言うが、実際私達は毎日不安不安-の生活をしています。住民税の引き上げ、年

金の目減り、医療制度の改悪等々で不安なことばかりで心は晴れません。「国の財政が赤字」というと直ぐに「社会保障費が多いから削減---」となりますが、社会保障って悪いことなのでしょうか。削るべき無駄は軍事費や大企業の優遇措置等々沢山あるはずですが、そっちを削って欲しい。マスコミも「社会保障費削減」や「消費税増税」と言いますが、「軍事費削減」とは言いません。マスコミの役割って何なの？ 69歳以下・女性

18-聞こえない声、見えない声を聴き取って国民の幸せを実現する政策・施策を行って欲しい。 69歳以下・男性

19-予算の無駄遣いが沢山あるので、その文を社会保障費に回して欲しい。年々高齢者が住みにくくなってきていますが、今まで必死に働いてきたものに手厚い保障を国に要請しましょう(一人では何も出来ないが、スクラムを組んでいきましょう)。 69歳以下・男性

20-何も期待出来ないように、ただただ諦めさせるための老人行政に加え、更に金をなけなしの財布からむしり取るようなことをしなければ日本は成り立たないのか。アメリカ様や大企業・大銀行の為の政治は国民をないがしろにするものだ。

21-国民の命を粗末にする自公政権は衰退する。医療を充実することが福祉国家の第一の条件である。大企業の要求に従う政治は必ず崩壊する。アメリカが先か、日本が先か、怒りを抑えきれず記入しました。 75~79歳以下・男性

22-年金生活者が年々増え、政府の医療費の支出がそれに比例して増えていくのは事実ですが、だからといって年金生活者の負担を多くしてその解決に当たることには反対です。もうこれ以上、新幹線も高速道路もいりませんので、そちらの財源を医療費や医療施設の方に回して欲しいと思います。天下りの天下である特別法人の全面解体を一番先にやるべき改革です。 69歳以下・男性

23-戦争で苦勞され、戦後の日本を築いてこられた高齢者を国の宝として大切にしたいです。人間の命は平等で尊いもの、社会保障へ国の財源を使うことこそ近代・民主国家と言えるのではないのでしょうか。 69歳以下・女性

24-こんなに弱いものいじめの政治でいいのか。「お金がない」というのは嘘です。アメリカを援助する無駄なお金、大企業を支援する補助金、無駄な軍事費等、弱者に目を向ける気持ちがあれば必要なお金は生まれるはずですが、大臣や高官その家族が大病したり大事故にあたり失業したり、どん底の生活を味わったらい。出ないと弱者の気持ちは分からないだろう。このままの政治だと弱者は、高齢者は法律の奴隷になる。 69歳以下・男性

25-新年度の予算では福祉、医療に対する激減が提案されている。高齢者が安心して暮らせるそんな行政こそ必要だ。ワーキングプア、孤立高齢者のいない、そんな社会の実現が切望される。 69歳以下・男性

26-国の施策の最重要課題は何か。国民の生命を守ることである。外交・防衛は二の次三の次であることを銘記すべき。経済力も国際比較は意味がないことを知るべきである。 75~79歳以下・男性

※07年12月28日以降の分※

1-現代版「姥捨て山」と言われる後期高齢者医療制度。人は誰でも年を取ります。高齢になれば誰でもいろいろな病気になります。そういう高齢者を“医療費が掛かる”と邪魔者扱いして、暮らしも健康も破壊する制度に大きな怒りがわきます。制度の見直しを求める“声”を大きな世論にして中止されなければなりません。今こそ“老人パワー”を発揮するときです。 69歳以下・男性

2-病院、施設、自宅-先ず自分の一番あったところで療養が出来るような体系を考えるべきだと思います。今の医療政策ではお金がないと“捨てられる”。年老いて一番冷酷な仕打ちだ。自分らしく人間として尊重される医療・介護施設、政策はどうあるべきかとの立場で考えて欲しい。現状の「まず経済的削減ありき」は本質的に間違っている。医療、介護従事者が少なすぎるので、もっと増やして欲しい。 69歳以下・女性

3-人間は必ず死を迎えるけれど、人間としての意識をはっきりと死の直前まで持ち続けることの出来ることが本当の人間の一生である。以上の環境を国として科学的に保障するような医療を完備することが一番に求められていると思います。これでこそ社会福祉の真の姿である。 85歳以上・男性

4-高齢者を粗末にすることは、国民を粗末にしているに等しい。弱者は裾野で富裕者はほんの一握り。施策は盤石な裾の作りと思う。 69歳以下・男性

5-日本の国の偉い人達は外国人には随分親切です。今まで頑張って働いてきた日本の老人には随分冷たく悪い方にばかり変えています。今学校ばかりでなく国の偉い人達が国民を虐めて楽しんでいるように感じます。老人は早く死ねと

いうことでしょうか。 70~74 歳以下・女性

- 6- 後期高齢者医療制度には反対です。もう用が済んだから早く死んで欲しいという制度で高齢者を出来るだけ少なくし、医療費を少なくしようとしているようにしか見えない。 75~79 歳以下・男性
- 7- 「ゆりかごから墓場まで」を粗末にするような人間の尊厳を否定する亡国論から脱却せよ。 69 歳以下・男性
- 8- 医療にお金で差別、年齢でも差別するのは憲法の法の下での平等の精神に反すると思います。イギリスやフランスのように医療費は無料になり安心して病気になっても暮らせるようにして欲しいと思います。 70~74 歳以下・女性
- 9- いつでも安心して入院出来る医療制度にして下さい。 69 歳以下・女性
- 10- 病院のたらい回しは困ります。法を整理して老後の介護のルートを確立すること。 70~74 歳以下・男性
- 11- 国のやり方は福祉社会に逆行している。無駄は他にいっぱいあるのに無駄と考えている。教育と福祉がきちんとしてこそ良い国と言える(政治の最大の役割)。それが無駄なら政治を変えるしかない。 70~74 歳以下・男性
- 12- 治療が可能な限りは病院で治療を受け生きる努力はしたいが、限界の場合は自宅で静かに最後を迎えたい。但し、同居者が元気である場合と、私の精神状態が健全である場合に限る。 69 歳以下・女性
- 13- 国も厚労省も我々国民の方と国民の目線で考えて欲しい。そうでないと恐ろしいことがおきますよ。国民をあまく見ないでね。 69 歳以下・男性
- 14- 元気で自宅で過ごせることが理想だが、解除が必要になった場合に現状では自宅では無理がある家庭が多い。ヘルパーに日中いて貰うとか、1 日必ず家族以外の人の助けが必要。年金生活で支払えるヘルパー、訪問看護の利用が必要。行政の経済的援助が少ないので、現状では家庭の負担が重すぎる。 70~74 歳以下・女性
- 15- 太平洋戦争でひどい思いをしながら今日の日本経済の土台となって働いてきた高齢者に対する今の政治に怒りを持っている。アメリカのいいなりの政治を変えることによって日本は新しい展望も開ける。国民の生活も豊になるに。国民の生命を守るのが政治でしょう。与党は狂っている。 70~74 歳以下・男性
- 16- 社会保障費を削減し、人殺しのための新テロ特措法には断固反対です。医療構造改革は破綻しています。直ちに廃止すべきです。08 年の医療制度改革に反対です。国はホスピス・緩和ケア病棟を地域ごとに保障して欲しい。
70~74 歳以下・男性
- 17- ターミナルケアは外国のような施設を造って、楽しみながら終末を迎えたい。保育園の数だけ町中に造りコミュニケーションをみんなで取れる老後を送らせて下さい。今まで国のために奉公してきたし、40 年間高い共済組合費を払い続けてきたのだから「若者が高齢者を支える」と恩着せがましく言わないで欲しい。肩身の狭い思いをさせられる理由はない。人間を大切に行政を行って欲しい。戦争より国民の福祉に税を使って欲しい。官僚は自分自身も老後はそうなることを考えて法律を作して下さい。 70~74 歳以下・女性
- 18- 何事もお金で解決出来る今の現状で、年を重ねるに付け不安が大きくなるのしかかってきます。自助努力にも限界があり、社会保障の充実を求める運動もあまり進まず、間に合いません。声が届かない。何故。今日も神に健康であることを感謝し、日々の生活を過ごしています。 69 歳以下・女性
- 19- 現在一人暮らし。冬季だけ息子と同居しています。現在は一応健康ですが、病気になった場合どうなるのかと心配です。息子達に負担をかけたくない。病院で治療を受けたい。 75~79 歳以下・女性
- 20- 高齢者に更なる負担を増やし、医療機関から追い出し、締め出しを狙う後期高齢者医療制度は即刻中止すべきです。
69 歳以下・男性
- 21- 「いのちの尊さ」「いのち」を国や厚労省はどう考えているのか。聞きたいものです。 70~74 歳以下・男性
- 22- 「かかりつけ医」がない場合どうなるのか。国保料、介護保険料の他にも後期保険料が取られるのか。
75~79 歳以下・男性
- 23- 戦前・戦中に青春を過ごした私達が高齢化したからと言って、高齢者は「早く死ね」という今回の医療制度には怒りを感じる。 80~84 歳以下・女性
- 24- 家族といっても現在同居しているのは娘一人である。ところが、娘は障害者で介護するにはとても無理である。今から不安が募るばかりです。 70~74 歳以下・男性
- 25- いまはまあまあ健康ですが、もしも考えると過程の中でということは考えられません。死に場所と言うより先に看護、リハビリが確保されなかった場合、非常に不安です。でもその時になってみななれば、自宅療養を希望す

- るかも知れません。 69歳以下・女性
- 26-家族が寝たきりでの状態で退院させられ大変な目にあったことがあります。 69歳以下・男性
- 27-高齢者医療制度の見直しで、医療料の負担増や地域医療の充実が逆行されたら大変困る。特に近年、生活費の個人収入が減り(年金からの天引きの増)、出費が増え、節約は極限に達し、生活を維持するのに四苦八苦です。老後に大変不安である。改悪は反対。改善は良しとします。 70~74歳以下・男性
- 28-自分では妻が介護してくれると思っているが、妻の気持ちを聞かないと何とも言えない。後期高齢者医療制度は廃止すべきだ。 69歳以下・男性
- 29-余りにも高齢者を差別している。長い間社会に対して貢献してきた高齢者の人権を無視したやり方です。
70~74歳以下・男性
- 30-長生きすると困るという国のやり方が、とても耐えられない腹が立ちます。もっと老人を大切にしたい。若い人にも負担をかけずに、生きていける政策を進めて欲しいものです。 70~74歳以下・女性
- 31-ただ単に生物的に生かす医療ではなく、健康で自立出来る生活のための医療体制、方法を検討すべきである。平均寿命の長さを競っても意味がない。延命治療の限度のガイドラインを作るべきである。 69歳以下・男性
- 32-同居の姉が介護保険を一回も使わずに86歳で亡くなりました。20日少々の入院でしたがすぐ退院を勧められました。なぜでしょうか。年寄り早く死ぬと言うことでしょうか。後期高齢者制度は負担が多くなるようです。これ以上何を節約しても今以上の負担は無理です。C型肝炎しかり国民の暮らし、健康を守るのが政治ではないか。国民の暮らし、命を守ることができず何が日米同盟か腹が立つこと沢山あり、この怒りをどこにやればいいのか。消費税の値上げはNOです。絶対制度の廃止を望みます。大企業から、大分の負担を。 70~74才 女性
- 33-安心して死ぬるように福祉の充実を求む。年金では介護も治療も大変だ。基礎年金をつくって欲しい。75歳以上の人の保険はつくらなくて欲しい。安心して暮らせる社会にして欲しい。 80-84才 男性
- 34-後期高齢者医療制度による医療の差別は許せない。尚お金が無ければ治療も駄目では老後に心の安らぎ無し。保険料負担と介護料で月1万円かかる福祉はやめ、平和で安心安全の世の中、仲良く楽しめる社会を。 75-79才 男性
- 35-誰もが自宅で看取られたいと願っている。それができない現状を打破するために、訪問介護や訪問看護などの自宅を中心とした福祉環境の整備を実施して頂きたい。もちろん当事者の経済的負担軽減をも。それでないと『美しい日本』にはほど遠い。 69才以下。男性
- 36-国は今まで日本の繁栄を支えてきた高齢者を早く死ぬと言わんばかりの制度で苦しめているのは許せません。財源ならいくらでも軍事費、その他から回せるはず。高齢者医療制度が弱い立場の高齢者をいじめるだけでなく、それ自体年とともに、負担が増えていくという仕組みも許せません。高齢者の負担増は若い人達の暮らしもおびやかなります。この悪性度は直ちに廃止すべきだと思います。 70-74才 女性
- 37-現在96才の母をケアハウスに預けています。まだ歩け肌着(下着)の洗濯もしていますが、自立できなくなるのも間近です。できれば自宅で最後をと思いつつも、孫の世話に(一人は発達障害、一人は三歳)と手がかり、夫は多発性骨髄腫です。時間的ゆとりがありません。月10万円以上かかる費用を兄弟四人で出し合い、やっと生活しているという状態です。老後もっと安心して入れる施設が足りないと思います。 69才以下 女性
- 38-これからの医療問題を考え私達がやがてくる70才、80才になっても安心して、医療にかかれるようこれからも運動を通して頑張り国などにどんどん意見を述べ署名活動に力を入れ後期高齢者医療制度を廃止させることを要求します。 69才以下 女性
- 38-これからの医療問題を考え私達がやがてくる70才、80才になっても安心して、医療にかかれるようこれからも運動を通して頑張り国などにどんどん意見を述べ署名活動に力を入れ後期高齢者医療制度を廃止させることを要求します。 69才以下 女性
- 39-①施設面、医療面でももっと安心して病院に行けるような制度にして欲しい。②誰でも病気にはなりたくない。もう少し予防医療制度を充実して欲しい。③高齢者を差別する制度は止めて頂きたい。④国保税が高すぎる。⑤介護保険制度を急いで改善して欲しい。取り分け介護士の待遇改善が緊急時です。⑥主権者・国民の生命を守る医療制度の視点が徹底されように切に願います。 70~74歳以下・男性
- 40-高齢者に前期も後期もないだろう。変な言葉、制度を作らないで欲しい。 70~74歳以下・男性

41-余りにも高齢者を虐めていないでしょうか。老後をいろいろ心配しなくても良いように施策を講ずるべきです。

70～74 歳以下・男性

42-自宅で死にたいから家族にお願いしているが、今の状態がいつまで続くかわからない。不安です。

69 歳以下・男性

43-誰の世話にもならず静かに死ねたらと思う人が多いと思います。いずれ来る道と知っていても老人の世話はしたくないと思います。今は元気ですが、静かに死なせてくれるなら、国や厚労省の方の方針も良いかも知れませんが、病気になる前から老人を恐がらせるのは止めて欲しい。元気だから腹が立ちます。 80～84 歳以下・女性

44-「死に場所」は個人の意志で選べません。国が厚労省が制度として「自宅で死ぬ」と強制するのはいかなものか。家族は外で働いて収入を得て生活を支えています。家族の介護は無理です。 69 歳以下・男性

45-昨年当たりから、病院から追い出される患者さんの話を聞きます。ある人は肺炎が治りきらないうちにリハビリに移され悪化したために病院に戻されましたが、間もなく亡くなりました。このように人間を粗末に扱う今の医療制度に怒りを感じます。 69 歳以下・男性

以上